

主催者挨拶

信者の人権を守る二世の会 代表 小嶋希晶

みなさん、こんにちは。信者の人権を守る二世の会の代表を務めています小嶋希晶と申します。

本日は、本シンポジウム会場にご足労頂いた皆様、オンラインでご視聴の皆様から心から感謝申し上げます。毎回、海外の方々にも視聴いただいておりますが、今回は初めて、英語の同時通訳も行うことになりました。たくさんの方々に関心を寄せていただき、日本人のみならず、世界各国の方々から、このシンポジウムを視聴していただける事になり、心から感謝申し上げます。また、この会場にも今までよりも多くの他宗教の方々が来場してくださいました。

今回のシンポジウムが、解散請求が出て初めての開催となりますが、今まで以上に旧統一教会のみならず、他の宗教の方々が危機感を覚えているという状況を肌感覚で感じております。現に二世の会のホームページにも、旧統一教会がもし解散になったら、他の宗教団体はどうなるのかといった内容が多く寄せられています。そういった中で、今回は「現代の日本社会において宗教は必要か」というテーマで、今回討論を行っていきます。

10月13日に家庭連合に対する解散命令請求が請求されてしまいました。家庭連合の現役二世であれば特に、宗教とは何なのか、宗教の役割は何なのか、私たちにとって宗教は必要なのか等々、真剣に向き合わざるを得ない状況になりました。今回は佐々木俊尚さんをお迎えし、宗教に関心のある見識の深い方ですので、内部の視点では分からない新しい視点、見解についてお聞きしながら、有意義な議論を重ねていきたいと思っております。

事件以降、宗教に対するイメージは日本において悪化の一途を辿っているわけですが、私たち現役信者がなぜ信じているのか、宗教というものを自分の中でどのようにとらえているのか発信していきながら、佐々木さんから様々な見解をお聞きしながら、宗教のイメージが少しでも変わるような時間になることを願いながら、主催の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。